

# 地区研修委員会

研修担当委員長 坂口 孝(川越 RC)

地区研修リーダー 相原茂吉(川越 RC)

副委員長  
委員  
委員  
アドバイザー

西澤長次(新狭山 RC)  
大畑 茂(朝霞 RC)  
齊藤勇司(鶴ヶ島 RC)  
栗山 昇(朝霞 RC)



今、国際ロータリーは、会員増強を強く訴えております。会員増強の「増」は会員数を増やすことであり、「強」はクラブを強くすることを意味します。この「強」を補完するのが「研修」の役目であり目的であります。すなわち地区研修委員会の目的は、リーダーを育て、クラブそして地区の強化を図ることにあります。

2004年11月、RI理事会は効果的なロータリークラブの管理の枠組みとして、CLPを採用・決定しました。このClub Leadership Planは、クラブの活性化プランであり、その主たるものはクラブ活性化のための組織作りであります。

具体的には、会員数の少ない小クラブでも、クラブとして自立していくための最小限度の組織管理体制（五つの常任委員会構成）を構築、また多くの会員を擁するクラブでは常任委員会を基礎として、必要に応じて当該委員会を設置することが出来るという、いわゆる「組織管理」を想定したものが、CLPの概念であります。また、各クラブにおいて、会長エレクトは、クラブの基盤強化の為に、次年度中に、クラブの研修プランを監督するクラブ研修リーダーを1名任命することが推奨されています。クラブ委員の任期は原則1年ですが、クラブ研修リーダーは3期まで務める事ができます。クラブ研修リーダーは、すべての研修ニーズが満たされるようクラブ理事会および各種委員会と連携、また、地区研修委員会、担当ガバナー補佐、地区ガバナーと協力し、支援とアイディアを得ながら、戦略を立てて、クラブの強化に努めます。

またロータリーは、「単年度」と言われております。しかしながら「よい変化」を達成するには一年ではなかなか難しいのが実情です。クラブの「ビジョン」は、未来に向かい志をもって育てていくものですが、「戦略」は組織活動の改革を意図するものであります。その為に戦略は組織活動の継続を必要とし、「継続」はクラブの強化・改革にとって非常に重要なファクターであります。

地区研修委員会は、このようなCLPに基づいたクラブ運営を応援し、DLP（地区リーダーシッププラン）と整合性を持ちながら、いかにクラブの強化を、そして地区の強化を図るかを責務とするものであります。

## クラブの研修プラン

- (a) クラブ指導者は、適宜、地区研修会合に出席
- (b) 新会員のためのオリエンテーションを定期的実施
- (c) 現会員のために継続的教育の機会を提供
- (d) 全会員が指導力育成プログラムを受けることができるようにする